

BEST AVAILABLE COPY**PREPARATION FOR EXTERNAL USE FOR SKIN FOR TREATMENT OF STRESS DISORDER**

Patent number: JP2000212028
Publication date: 2000-08-02
Inventor: TSUJI KUNIO; ISHIDA KINJI; MATSUMOTO KATSUO;
NISHIMORI YASUTOMO; FUKUSHIMA MAKOTO
Applicant: POLA CHEM IND INC
Classification:
- international: A61K7/00; A61P17/00; A61K35/78
- european:
Application number: JP19990018058 19990127
Priority number(s): JP19990018058 19990127

Ref. '12

Report a data error here

Abstract of JP2000212028

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a means for treating the stress-induced disorder of skin.
SOLUTION: This preparation for external use for skin contains one or more Chinese herb drug components selected from among the origin animals, origin vegetables and derived materials of herb drugs classified as Kaihyo-yaku, Risui-yaku, shageyaku, Seinetsu-yaku, Riki-yaku, Onrikyokan-yaku and koju- yaku. The effect of stress on the skin can be prevented, improved and suppressed by the application of the preparation of the present invention to enable the treatment of the skin disorder caused by stress.

Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

【物件名】

刊行物12

刊行物12

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-212028

(P2000-212028A)

(43) 公開日 平成12年8月2日(2000.8.2)

(51) Int. Cl.	識別記号	F1	キーワード(参考)
A61K	7/00	A61K	7/00 K 4C083
A61P	17/00		31/00 B17 4C088
A61K	35/78		35/78 A

審査請求 未請求 請求項の数6

OL

(全7頁)

(21) 出願番号 特願平11-18058

(22) 出願日 平成11年1月27日(1999.1.27)

(71) 出願人 000113470

ポーラ化成工業株式会社

静岡県静岡市弥生町6番48号

(72) 発明者 辻 邦郎

静岡県静岡市池田1375-11

(72) 発明者 石田 均司

静岡県静岡市瀬名5丁目7番23号

(72) 発明者 松本 克夫

神奈川県横浜市中区柏尾町560 ポーラ

化成工業株式会社戸塚研究所内

(72) 発明者 西森 康友

神奈川県横浜市中区柏尾町560 ポーラ

化成工業株式会社戸塚研究所内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ストレス障害対応皮膚外用剤

【添付書類】

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、ストレスに起因する皮膚の不調への対応する手段を提供することを課題とする。

【解決手段】 漢方生薬分類の内、解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、祛風去寒薬及び固脱薬に分類される生薬の基源動物、基源植物又は由来物のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上を皮膚外用剤に含有させ、投与する。本発明の皮膚外用剤を投与することにより、ストレスの皮膚への影響を予防・改善・抑制することが出来、ストレスに起因する皮膚の不調へ対応することが出来る。



127

(2)

特開2000-212028

2

【特許請求の範囲】

【請求項1】 漢方生薬分類の内、解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、温裏去寒薬及び固澀薬に分類される生薬の基源動物、基源植物又は由来物のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上を含有する、ストレスによる障害の対応用の皮膚外用組成物。

【請求項2】 ストレスによる障害が、皮膚機能の低下である、請求項1に記載の皮膚外用組成物。

【請求項3】 皮膚機能がバリアー能である、請求項1又は2に記載の皮膚外用組成物。

【請求項4】 解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、温裏去寒薬及び固澀薬に分類される生薬（基源動物、基源植物又は由来物）が、マンケイシ (*Vitex rotundifolia*)、ケイシ (*Cinnamomum cassia* Blume)、ケイガイ (*Schizonepeta tenuifolia* Briq.)、ボウフウ (*Ledebouriella seseloides* Wolff)、コウジュ (*Elaeagnus argentea* Sieb. et Zucc.)、ハッカ (*Mentha arvensis*)、ノギクカ (*Chrysanthemum indicum* L.)、フヘイ (*Spirodelia pteridifolia* Schlecht.)、ヒカイ (*Dioscorea sativa* L.)、トウシンソウ (*Juncus decipiens* Nakai)、ブクリョウ (*Poria cocos* Wolf)、シャゼンソウ (*Plantago asiatica* L.)、チョレイ (*Glifolia umbellata* Pilat)、クバク (*Dianthus superbus* L.)、センキュウ (*Ligusticum wallichii* Franch.)、タンジン (*Saiva miltiorrhiza* Bge.)、ニッケイ (*Cinnamomum cassia* Bl.)、シヨクモク (*Zanthoxylum simulans* Hance)、ビヤクレン (*Ampelopsis japonica* Mak.)、ロホウボウ (アシナガバチの巣)、キョウオウ (*Curcuma longa* L.)、ジュウイシ (*Leonurus heterophyllus* Sweet)、タクラン (*Lycopus lucidus* Turcz.)、セキシヤク (*Paenia lactiflora* Pall.)、ゴレイジ (*Pteropodaceae* 属)、スイテツ (*Whitmaniapigra* Whitman)、エンゴサク (*Corydalis bulbosa* DC)、トウニン (*Prunus persica* Batsch)、ビヤクキョウ (*Bletilla striata* Reichb.)、ガジュツ (*Curcuma zedoaria* Rosc.)、ビヤクジュツ (*Atractylodes macrocephala* Koidz.)、ロクジヨウ (*Cervus nippon* Temminck)、トウキ (*Angelica sinensis* Diels)、オウギ (*Astragalus membranaceus* Bge.)、カイバ (*Hyppocrepis Kelloggii* Jordan et Snyder)、マジン (*Cannabis sativa* L.)、ショウリク (*Phytolacca esculenta* Vahoutt.)、ギンキョウ (*Ginkgo biloba* L.)、ジンコウ (*Aquilaria sinensis* Gilg)、カイキンサ (*Lygodium japonicum* (Thunb.) Sw.)、トウヒ (*Citrus aurantium* L.)又はテンビ (*Citrus reticulata* Blanco)であることを特徴とする、請求項1～3の何れか一項に記載の外用組成物。

【請求項5】 エッセンスが抽出物乃至はその精製除去物であることを特徴とする、請求項1～4の何れか一項に記載の皮膚外用組成物。

【請求項6】 化粧品であることを特徴とする、請求項

1～5の何れか一項に記載の皮膚外用組成物。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、ストレスによる肌機能の低下に対応するのに有用な、化粧品などの皮膚外用剤に関する。

【0002】

【従来の技術】 現代はストレスの時代であり、現代に暮らすものは大なり、小なりストレスとともに生きている。ストレスは、人間生活に於いては必要なものであるが、過剰に付加されたストレスは、多くの場合にその生命活動に好ましくない影響を与える。例えば、数年前に多発して問題になった過労死の如く、過剰なストレスは循環器に大きな傷害を与えることは周知のことである。

【0003】 過剰なストレスが与える影響は、循環器に止まらないことは、近年のストレス研究に於いて明らかにされている。例えば、免疫系は過剰のストレスにより、著しく低下したり、過剰な自己防衛反応を引き起こしたりする。即ち、免疫系が関与すると言われている、花粉症などのアレルギー反応、気管支喘息等が記念急増している原因の一つに、この様な過剰ストレスの存在があることも指摘されている。言い換えれば、過剰なストレスは生体恒常性システムの機能を阻害し、生体内の環境を狂わせる作用を示す。これは全身のみに止まらず、皮膚などの局所にも大きな影響を与えることは、本発明者により今回見出されている。今まで、原因があまり明らかでなかった皮膚の不調の原因の一つがストレスであることも、本発明者らは見出すに至った。従って、この様なストレスの肌への影響を抑制する手段を見出し、この手段を講ずることにより、従来の技術では対応できなかった皮膚の不調を克服できることに本発明者らは気がついた。

【0004】 一方、この様なストレスと皮膚の不調の関係が知られていなかったことから、漢方生薬分類の内、解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、温裏去寒薬及び固澀薬に分類される生薬の基源動物、基源植物又は由来物のエッセンスにこの様なストレスに起因する皮膚の不調に対応する効果があることは、全く知られていなかった。尚、本発明で言う対応とは、ストレスにより影響を受けることを予防する効果とストレスにより受けた作用から回復するのを促進する作用の総合した作用を意味し、ストレスからの影響を生体が受けにくくする作用を意味する。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、この様な状況下で為されたものであり、ストレスに起因する皮膚の不調に対応する手段を提供することを課題とする。

【0006】

【課題の解決手段】 この様な状況に鑑みて、本発明者らは、ストレスに起因する皮膚の不調に対応する手段を求

(3)

特開 2000-212028

3

4

めて鋭意研究努力を重ねた結果、漢方生薬分類の内、マンケイシ (*Vitex rotundifolia*)、ケイシ (*Cinnamomum cassia* Blume)、ケイガイ (*Schizonepeta tenuifolia* Briq.)、ボウフウ (*Ledebouriella seseloides* Wolf f.)、コウジュ (*Elsholtzia haichowensis* Sun)、ハッカ (*Mentha arvensis*)、ノギクカ (*Chrysanthemum indicum* L.)、フヘイ (*Spirodela ptyriza* Schleid.)、ヒカイ (*Dioscorea sativa* L.)、トウシンソウ (*Juncus decipiens* Nakai)、ブクリョウ (*Poria cocos* Wolf f.)、シャゼンソウ (*Plantago asiatica* L.)、チョレイ (*Glifolia umbellata* Pilat)、クバク (*Dianthus superbus* L.)、センキウ (*Ligusticum wallichii* Franch.)、タンジン (*Salvia miltiorrhiza* Bge.)、ニッケイ (*Cinnamomum cassia* Bl.)、ショクモク (*Zanthoxylum simulans* Hance)、ビヤクレン (*Ampelopsis japonica* Mak.)、ロホウボウ (アシナガバチの巣)、キョウオウ (*Curcuma longa* L.)、ジュウイシ (*Leonurus heterophyllus* Sweet)、タクラン (*Lycopus lucidus* Turcz.)、セキシヤク (*Paenia lactiflora* Pall.)、ゴレイシ (*Pteropodiaceae*の糞便)、スイテツ (*Whitmania pigra* Whitman)、エンゴサク (*Corydalis bulbosa* DC)、トウニン (*Prunus persica* Batsch)、ビヤクキョウ (*Bletilla striata* Reichb.)、ガジュツ (*Curcuma zedoaria* Rosc.)、ビヤクジュツ (*Atractylodes macrocephala* Koidz.)、ロクジョウ (*Cervus nippon* Temminck)、トウキ (*Angelica sinensis* Diels)、オウギ (*Astragalus membranaceus* Bge.)、カイバ (*Hippocampus kelloggii* Jordan et Snyder)、マシニン (*Cannabis sativa* L.)、ショウリク (*Phytolacca esculenta* Vanhoutte)、ギンキョウ (*Ginkgo biloba* L.)、ジンコウ (*Aquilaria sinensis* Gilg)、トウヒ (*Citrus aurantium* L.)、カイキンサ (*Lygodium japonicum* (Thunb.) Sw.) 又はテンビ (*Citrus reticulata* Blanco) 等の解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、温裏去寒薬及び固澀薬に分類される生薬の基源動物、基源植物又は由来物のエッセンスにこのような作用があることを見出し、発明を完成させるに至った。ここで、本発明で言うエッセンスとは、これら基源動物、基源植物、これらの由来物質そのもの、それらを乾燥、粉碎、細切等加工した加工物、それらを溶媒で抽出した抽出物、抽出物より溶媒を除去した抽出物の溶媒除去物、抽出物又はその溶媒除去物を分画精製した分画精製物又はその溶媒除去物などの総称を意味する。以下、本発明について、その実施の形態を中心に詳細に説明を加える。

【0007】

【発明の実施の形態】 (1) 本発明の皮膚外用組成物の必須成分

本発明の皮膚外用組成物は、解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、温裏去寒薬及び固澀薬に分類される生薬の基源動物、基源植物又は由来物のエッセンスから選

ばれる1種乃至は2種以上を含有することを特徴とする。このような、生薬の基源動物、基源植物又は由来物の好ましい例としては、例えば、マンケイシ (*Vitex rotundifolia*)、ケイシ (*Cinnamomum cassia* Blume)、ケイガイ (*Schizonepeta tenuifolia* Briq.)、ボウフウ (*Ledebouriella seseloides* Wolff)、コウジュ (*Elsholtzia haichowensis* Sun)、ハッカ (*Mentha arvensis*)、ノギクカ (*Chrysanthemum indicum* L.)、フヘイ (*Spirodela ptyriza* Schleid.)、ヒカイ (*Dioscorea sativa* L.)、トウシンソウ (*Juncus decipiens* Nakai)、ブクリョウ (*Poria cocos* Wolf f.)、シャゼンソウ (*Plantago asiatica* L.)、チョレイ (*Glifolia umbellata* Pilat)、クバク (*Dianthus superbus* L.)、センキウ (*Ligusticum wallichii* Franch.)、タンジン (*Salvia miltiorrhiza* Bge.)、ニッケイ (*Cinnamomum cassia* Bl.)、ショクモク (*Zanthoxylum simulans* Hance)、ビヤクレン (*Ampelopsis japonica* Mak.)、ロホウボウ (アシナガバチの巣)、キョウオウ (*Curcuma longa* L.)、ジュウイシ (*Leonurus heterophyllus* Sweet)、タクラン (*Lycopus lucidus* Turcz.)、セキシヤク (*Paenia lactiflora* Pall.)、ゴレイシ (*Pteropodiaceae*の糞便)、スイテツ (*Whitmania pigra* Whitman)、エンゴサク (*Corydalis bulbosa* DC)、トウニン (*Prunus persica* Batsch)、ビヤクキョウ (*Bletilla striata* Reichb.)、ガジュツ (*Curcuma zedoaria* Rosc.)、ビヤクジュツ (*Atractylodes macrocephala* Koidz.)、ロクジョウ (*Cervus nippon* Temminck)、トウキ (*Angelica sinensis* Diels)、オウギ (*Astragalus membranaceus* Bge.)、カイバ (*Hippocampus kelloggii* Jordan et Snyder)、マシニン (*Cannabis sativa* L.)、ショウリク (*Phytolacca esculenta* Vanhoutte)、ギンキョウ (*Ginkgo biloba* L.)、ジンコウ (*Aquilaria sinensis* Gilg)、トウヒ (*Citrus aurantium* L.)、カイキンサ (*Lygodium japonicum* (Thunb.) Sw.) 又はテンビ (*Citrus reticulata* Blanco) 等が好ましく例示できる。

これらの生薬の基源植物・基源動物乃至はその由来物について、使用できる部位は特段の限定はないが、漢方生薬の使用部位に準じた部位を使用するのが特に好ましい。これらのエッセンスの内、特に好ましいものは、抽出物乃至はその溶媒除去物である。この抽出に使用する溶剤としては、通常用いられているものであれば特段の限定はないが、例えば、水、メタノール、エタノール、1, 3-ブタンジオール等のアルコール類、酢酸エチル、酪酸メチル等のエステル類、ジエチルエーテル、テトラヒドロフラン等のエーテル類、アセトニトリル等のニトリル類、クロロホルムや塩化メチレン等のハロゲン化炭化水素類、アセトンやメチルエチルケトン等のケトン類等から選ばれる1種乃至は2種以上が好ましく例示できる。これらの中で特に好ましいものは、アルコール類と水である。これは安全性が高い上に、本発明のス

(4)

特開2000-212028

5

トレスによる皮膚の機能低下の対応に有効な成分類が抽出され易いためである。本発明で使用する抽出物の製造は、通常行われている方法に従って行えば良く、例えば、生薬の基源動物、基源植物又は由来物及び/又はその加工物に1~10倍量の溶媒を加え、沸点付近の温度であれば数時間、室温であれば数日間浸漬し、必要に応じて濾過で不溶物を除去し作成すればよい。溶媒除去が必要な場合には、減圧留去等して除去すればよい。本発明の皮膚外用組成物に於けるこれらエッセンスの好ましい含有量は、組成物全量に対して、エッセンスの総量として、0.01~10重量%が好ましく、更に好ましくは0.05~5重量%である。

【0008】(2) 本発明の皮膚外用組成物

本発明の外用組成物は、上記解表薬、利水薬、瀉下薬、清熱薬、理気薬、温裏去寒薬及び固表薬に分類される生薬の基源動物、基源植物又は由来物のエッセンスから選ばれる1種乃至は2種以上を含有し、ストレスに起因する皮膚の不調への対応用であることを特徴とする。本発明で言う、皮膚外用組成物とは、皮膚外用で適用される組成物の総称を意味し、この様なものであれば種類は問わないが、例えば、化粧品、皮膚外用医薬組成物、皮膚外用殺菌消毒剤等が好ましく例示できる。これらの内最も好ましいものは化粧品である。これは本発明の皮膚外用組成物の有効成分であるエッセンスが安全性に優れるためである。本発明に言う対応とは、具体的には、ストレスによる皮膚の不調の発症への対応(予防・改善)、発生したストレス性皮膚不調の増悪への対応(予防・改善)、組成物中の成分とストレスの相乗効果によって生じる皮膚の不調への対応(予防・改善)などの総称を意味する。ここで言う皮膚の不調とは、炎症やブツの発生などの病的な症状はもとより、水分散逸量の増加、刺激物質の侵入抑制の低下、皮膚再生能力の低下、細胞周期の不調、角質細胞層やコラーゲン構造などの乱れなどの小さいものまで含めて、皮膚が本来有している機能の低下を総称したものである。この様な皮膚の不調に対しては、通常の皮膚の不調に卓効のある、ステロイド剤や抗炎症剤はあまり機能しない。これは、不調のみを抑制し*

エッセンス*

エタノール

水

*表1に詳細を記す。

【0012】

【表1】

6

*でも、その根元にあるストレスを改善しない限り、不調の発症は抑えられないからである。即ち、ストレス改善と、皮膚不調の改善の療法の作用を有する物質が存在して初めてその対応は可能となるわけである。本発明の皮膚外用組成物はこのような作用を有する。又、このような作用があるため、従来の技術で使用されていた抗炎症成分やステロイドと併用することにより、相乗的な効果も発揮する。

【0009】本発明の皮膚外用組成物に於いては、上記エッセンス以外に、通常皮膚外用組成物に於いて使用される任意成分を含有することが出来る。かかる任意成分としては、ワセリンやマイクロクリスタリンワックス等のような炭化水素類、ホホバ油やゲイロウ等のエステル類、牛脂、オリーブ油等のトリグリセリド類、セタノール、オレイルアルコール等の高級アルコール類、ステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸、グリセリンや1,3-ブタンジオール等の多価アルコール類、非イオン界面活性剤、アニオン界面活性剤、カチオン界面活性剤、両性界面活性剤、エタノール、カーボポール等の増粘剤、防腐剤、紫外線吸収剤、抗酸化剤、色素、粉体類等が好ましく例示できる。これ以外に、皮膚外用医薬組成物であれば、その主たる薬効を発揮する、ステロイド剤、抗炎症剤、抗アレルギー剤、消炎鎮痛剤、抗真菌剤、殺菌剤、抗生物質等の有効成分を含有しうることは言うまでもない。本発明の皮膚外用組成物は、この様な成分を通常知られている方法に従って処理することにより、製造することが出来る。

【0010】

【実施例】以下に、実施例を挙げて更に詳細に本発明について説明を加えるが、本発明がこれら実施例のみに限定を受けないことは言うまでもない。

【0011】<実施例1>以下に示す処方に従って、本発明の皮膚外用組成物であるローション(化粧品)を作成した。即ち、処方成分を室温で良く攪拌し、濾過して不溶物を除去してローションを得た。尚、基源動物、基源植物又はその由来物質のエッセンスとしては、生薬に準じた部位のメタノール抽出物の溶媒除去物を用いた。

1 重量部

49.5重量部

49.5重量部

7

化粧料（ローション）	処方成分	処方特徴
1	グリセリン	保湿作用
2	3-ブタンジオール	保湿作用
3	硫酸化トレハロースナトリウム	保湿作用
4	ヘパリン類似物質	保湿作用
5	ローズマリーエキス	保湿作用
6	ツボクサエキス	保湿作用
7	ブクリョウの1, 3-ブタンジオール抽出物	保湿作用
8	チョレイのエタノール抽出物の溶媒除去物	保湿作用
9	エタノール	保湿作用
10	ポリオキシエチレン(80)硬化ヒマシ油	保湿作用
11	メチルパラベン	防腐作用
12	水	溶媒

【0013】＜実施例2＞上記本発明の化粧料である、
ローション1～35を用いて、ストレスによる皮膚機能
の低下の対応作用を調べた。使用したストレスモデル
は、過剰飼育ストレスモデルであった。即ち、通常の2
倍の密度で2週間飼育し、その後テープストッピング
し、皮膚機能の低下を経表皮水分蒸散量（TEWL）を
測定し、これの経時変化を指標に評価した。対応の処理
は予備飼育期間（2週間）にローション1～35で1日
1回0.1mlを背部部位に投与して行った。対照群は
50%エタノールで処理した。予備飼育は通常密度で行
った。使用動物はSkh系ヘアレスマウス（雄性、10
～15週齢）を用い、1群10匹とした。評価は群全体
のTEWLの様子を見、++：著しいTEWL増加抑
制、+：明らかなTEWLの増加抑制、±：微弱なTE
WLの増加抑制、-：抑制が認められない基準で対応
作用を判定した。結果を表1に示す。これより、本発明
の化粧料がストレスによる皮膚機能の低下などの障害が

グリセリン

1. 3-ブタンジオール

硫酸化トレハロースナトリウム

ヘパリン類似物質

ローズマリーエキス

ツボクサエキス

ブクリョウの1, 3-ブタンジオール抽出物

チョレイのエタノール抽出物の溶媒除去物

エタノール

ポリオキシエチレン(80)硬化ヒマシ油

メチルパラベン

水

【0016】＜実施例4＞以下に示す処方に従って、本
発明の化粧料である、乳液1を作成した。即ち、イ、

(5)

特願2000-212028

8

発生するのを抑制する作用に優れることがわかる。即
ち、本発明の化粧料を投与することにより生体はストレ
スに対応する能力を増強させることができる。

【0014】

【表2】

化粧料（ローション）	対応作用
1	++
2	++
3	++
4	++
5	++
6	++
7	++
8	++
9	++
10	++
11	++
12	++
13	++
14	++
15	++
16	++
17	++
18	++
19	++
20	++
21	++
22	++
23	++
24	++
25	++
26	++
27	++
28	++
29	++
30	++
31	++
32	++
33	++
34	++
35	++

10

【0015】＜実施例3＞下記に示す処方に従って、本
発明の化粧料である、化粧水1を作成した。即ち、処方
成分を室温で攪拌可溶化し、化粧水を得た。このものを
残薬時間が月50時間以上であり、肌トラブルを有して
いる女子従業員4名に1日朝・夕2回、連日2カ月使用
してもらったところ、全員が肌トラブルの改善を見た。
これは、本発明の化粧料のストレスに起因する皮膚機能
の低下抑制作用により、ストレスによる皮膚機能の増悪
因子の発現が抑制されたため、トラブル改善作用を有す
る、ローズマリーエキスやツボクサエキスの作用が如実
に現れたからである。

3 重量部

5 重量部

0.1 重量部

0.1 重量部

0.1 重量部

0.1 重量部

0.1 重量部

5 重量部

0.1 重量部

10 重量部

0.1 重量部

0.3 重量部

76.1 重量部

ロ、ハをそれぞれ80℃に加熱し、イとロを混合し中和
した後、これにハを徐々に加え乳化し、ホモジナイザー

(6)

特開2000-212028

9

10

で乳化粒子を整えた後、攪拌冷却して乳液1を得た。

イ

グリセリン	3	重量部
1, 3-ブタンジオール	5	重量部
硫酸化トレハロースナトリウム	0.1	重量部
ヘパリン類似物質	0.1	重量部
ローズマリーエキス	0.1	重量部
ツボクサエキス	0.1	重量部
ブクリョウのエタノール抽出物	0.1	重量部
ペムレンTR-2	0.2	重量部
水	36.1	重量部
ロ		
水酸化カリウム	0.1	重量部
水	40	重量部
ハ		
スクワラン	10	重量部
セラキルアルコール	2	重量部
バチルアルコール	2	重量部
ポリオキシエチレン(20)ベヘニルエーテル	1	重量部
ブチルパラベン	0.1	重量部

【0017】＜実施例5＞以下に示す処方に従って、本発明の皮膚外用医薬組成物であるステロイドクリームを作成した。即ち、イ、ロ、ハ、ニをそれぞれ80℃に加熱し、イとロを良く混練りし、これにハを加え希釈し、更にニを徐々に加え乳化した。これを攪拌冷却して、ステロイドクリームを得た。このものをアトピー性皮膚炎に悩む患者に1カ月使用してもらったところ、症状が著

しく改善した。この患者は、ステロイドクリームが効果を奏さないことが度々あったが、本発明の皮膚外用医薬組成物では著しい効果を発揮した。これは、アトピー性皮膚炎の増悪因子としてストレスが知られているが、この患者に於いては、ストレス因子が大きく働いていたものと思われる。この因子の発現を抑制することにより、このような効果が認められた。

イ

70%マルビトール水溶液	5	重量部
グリセリン	3	重量部
1, 3-ブタンジオール	5	重量部
メチルパラベン	0.3	重量部
ブチルパラベン	0.1	重量部
ロ		
トリグリセリンジイソステアレート	5	重量部
ハ		
固形パラフィン	2	重量部
マイクロクリスタリンワックス	3	重量部
流動パラフィン	10	重量部
カルナウバワックス	2	重量部
軽質イソパラフィン	5	重量部
ブレドニゾン	1	重量部
ニ		
水	58.5	重量部
ブクリョウのメタノール抽出物の溶媒除去物	0.1	重量部

【0018】

【発明の効果】本発明によれば、ストレスに起因する皮

膚の不調への対応する手段を提供することができる。

(7)

特開 2000-212028

フロントページの続き

(72)発明者 福島 信
神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ
化成工業株式会社戸塚研究所内

Fターム(参考) 4C083 AA071 AA072 AA111 AA112
AA122 AB032 AC012 AC022
AC102 AC122 AC132 AC172
AC182 AC422 AC432 AC482
AD212 AD312 AD592 CC02
CC04 CC05 EE13
4C088 AA04 AB03 AB12 AB33 AB35
AB38 AB40 AB41 AB56 AB59
AB71 AB81 AC01 BA08 CA06
MA28 ZA89

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☒ ~~BLACK BORDERS~~
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☒ ~~SKEWED/SLANTED IMAGES~~
- ☒ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.